
ほんとうのこころ

鈴蘭

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ほんとうの恋

【Zコード】

Z6235Z

【作者名】

鈴蘭

【あらすじ】

「新一なんか…大嫌い！…！」

私が言ったこの言葉で新一との関係が崩れてしまつ…

新一、私は今でも、あなたのことが大好きです…

「もう顔も見たくないんじゃねーの？」

新一カラ告げられたこの言葉。－新一のばか

「新一は、山城さんのほうが好きなんでしょう?」「俺は…」「工藤君、あなた、変な意地張ってんじゃないわよ!」「元の蘭を帰してよ!」「私は…工藤君とは無関係よ、ただ、あなたがかかわる問

題じゃないの……！」「私と工藤君は恋愛関係じゃ……

「うそよー！」

はたして、新一と蘭の恋の結末は！？

「新一のばか…」

蘭は半泣きでいつもの帰り道を歩いていた。

新一と蘭が付き合つて二ヶ月がすぎる。

いまだに喧嘩はあるようだが、蘭が泣くまでひどいことはなかった。

それは、一時間ほど前のことだった。

「おー、り・・・」

新一と蘭は違うクラス。

蘭はA組。新一是B組。

新一が彼女の蘭を呼びに行こうとした時、同じクラスにいた、新一と肩を並べるほどのイケメンで優しい男子と蘭が仲良く話していたのを新一は見てしまった。

その男子は蘭と話している時だけうれしそうに顔を赤くしているのだ。

「へえ～・・・すご~いね！」

「あ、そうだ、今度行こうよ~そのサークル一日曜日でさ~」

「あ、日曜はだめ。新一と…」

「いってそんなの！」

「でも…」

「いいから…か…ら…！」
その男子がふと、ドアのほうを見ると、新一がものすごい剣幕で男子を見蘭でいた。

「あ、新一！」

「よう、蘭。何の話してたんだあ？」

何か意味ありげな顔をして蘭に聞く。

「なんか、サークス行かないかなかつて。」

「断つたんだろうな？」

「うん…」

蘭は何か不安げな顔をする。

「どうした？」

「空手が…」

「あ、もしかして、大会なんか？」

「うん…近いから、合宿しないかつて。」

蘭は心配そうな悲しそうな顔をした。

新一が起こるであろう、そう思ったのだ。

「なんだ、そうだったのか。実は、俺も用事があつたんだ。」

「え…？」

「工藤君！」

「あ、山城。」

山城優未が蘭の目の前に現れた。優実は、ツインテールで美少女である。

「山城さん…。」

「工藤君、日曜のこと、忘れないでよ…？なんたつて、あれは…」

「シツ！」

新一が急いで優実の口をふさぐ。蘭はそれを不審に思った。

「新一…山城さんと行くんだ。ふうん…デート？」

「あ、違うって…。」

「そうよね、なんなら、別れようよ。私なんかより、山城さんのほうがいいんでしょ？」

蘭はうつむきながら言った。

新一はあわてていたがどうしようもできなかつた。

「蘭…違うって…！」

「新一のばかあツ！！！」

新一なんか…新一なんか…大嫌い…！…！…！」

蘭はそういうなり、走って学校を出て行ってしまった。

自分の心

日曜日、私は自分の部屋で泣いていた。

新一とは別れた・・・つていうの？

本当は本当は、別れたくないなんかない、嫌いじゃない。

大好きでずっと一緒にいたい。

でも、新一は…山城さんと今日、デート。

2人でどこに行くんだろう…

映画？

ショッピング？

公園？

それとも、

私と新一がよく行つた、トロピカルランド？

ああ、トロピカルランド…1人でもいい。行つてみたい。
久しぶりに…。

新一は、私ではなく、山城さんを選んだ。

まあ、当たり前。私なんかより、可愛げがあつて、女の子らしくて。
空手をやっている野蛮な私なんかよりも、すっぽり可愛い。私は、
ブサイクで優しくなんかない。

いつも新一のせいばかりして。

だから新一も飽きちゃったんだよね？

私がばかだから…

私は不細工だから…

私がいけないから…

「おー、蘭！」

お父さんの声…。

「探偵坊主が来たぞ〜！」

探偵…坊主…？

新一……！

私は急いで行こうとした。でも、急に足が止まった。

怖い……

新一にあんなことをつけて……

どうせ、別れよつ、とでも言つては思わなかつた。

私はそのまま部屋から出よつとは思わなかつた。

「帰つて！」

私はそう叫んだ。

「毛利さん！」

山城さん…の…

やつぱりいたんだ。

「おい、探偵坊主、そいつは誰だ！？」

「は～い、山城優実です！工藤君の友達といつか、彼女といつか？」

「ちがうだろ。」

「はあ？おまえの彼女は蘭だろ？が！？」

「あ、そのことで…」

え…

やつぱり別れよつて…

新一のばか

私、恥ずかしいじゃない。

あんなに、あんなに、新一と一緒にいたことが…。

「帰つてよーもつ…かおもみたくない！…！」

あ、いつちやつた。

ドリームリバ

私は急いでドアを開けて、玄関へ向かつた。

そこには、新一と山城さんが帰ろうとしていた。

「ま、待つて……！」

私は一人を追いかけた。

2人は振り向く。

「『めんなさ……』

「顔も見たくないんじゃねーの？」

し、
新
一
？

「お前、俺のこと嫌いなら…」

別れる
か？」

自分の心（後書き）

新一
…！

とうとうこつてしまつた！？

「新一？」

「蘭、おまえは俺と別れたいのか？」

「そんなことない！ただ…イラついてたの…ゴメンナサイ…」
どうして？どうしてここまで私が苦しい思いを？

新一じゃないみたい…。

「いや、別にいいんだ。」

「新一、山城さんとどこへ？」

「どこだつていいだろ？」

「何よ…それ…」

「蘭には関係…」

「あるわよ！新一、新一のほうこそ、私と別れたいんでしょ！？」な
んなら、

別れてあげよ！じゃない！じゃあね、新一！

バカ…何言つてんのよ…

「毛利さんー待ってー話があるのー！」

いや、じょひと思わなかつた。

でも、私は振り返ることができなかつた。

「おい、蘭ー」
新一が私を呼んでる…

「いいわよ…別に…？」

「何？話って。」

「毛利さん、私、工藤君とは恋愛関係じゃ……」

「嘘よ……」

「毛利さん……？」

「私がこんな思いをしてるのは……山城さんがいたから……っ！」

「毛利さん、そのことは『メンナサイ……でも……私は工藤君とは無関係です……いや、家族関係ですね……』」

「家族関係？」

「そうです。だから……私は……工藤君のことは好きじゃないです

……」

「本當……？」

「やうですー」

「ほつとした……

でも、やうこよひ、これから…

「うわ、新一は怒ってる。

「ごめんね、新一。

「毛利さん、私、応援しますよ? 私、一応、毛利さんファンですか
らー。」

「ありがとう…」

私は泣いていた。「ごめんね、新一。」

私は急いで、志保にメールした。

『T.O.志保

いきなりごめん。

じつは、今さつき新一と別れてしまったの。原因は私
どうしたらいいと思つ?

園子にもメールしどぐ。志保の意見聴かせて…!

こう打つとすぐに送信した。

そして、数分すると、返信が来た。

『T.O.蘭

はあ？工藤君と別れた？

どうして？まあ、それは工藤君に聞くわね。

工藤君はAPT-X4869で脅せばスラスラとはいてくれるわ。』

アハハ・・・志保らしいな…

よおしさは園子！

『T.O.園子

今さつき、新一と別れちゃった。どうしたらいい?

原因は私なの。「顔も見たくない」つていつたら、なんだか、新一
めちゃくちゃ怒って謝つたら、新一、いそそと山城さんと出かけ
ようとしたの。でも、山城さんは新一のこと好きじゃないって。
新一は…山城さんは家族関係らしいの。何のこと話してたかわか
らないけど、でもでも、私は新一のこと好き。どうしたらいとお
もうー?』

送信送信つと。

数分後、

『T.O蘭

はあああああああ!? 新一君と別れたあ!?
ぬあにやつてんのよ! あんたたち、付き合つて約一ヶ月じゃない!
わかったわ、新一君に問い合わせるわねー志保と共同で! 蘭、あんま
り凹まないでね!

園子…

いい親友を持ったなあ… 今頃だけど。

でも、ありがとう、2人とも。

家族関係（後書き）

どうなるの！？2人い！
感想待つてます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6235z/>

ほんとうのこころ

2011年12月21日20時54分発行